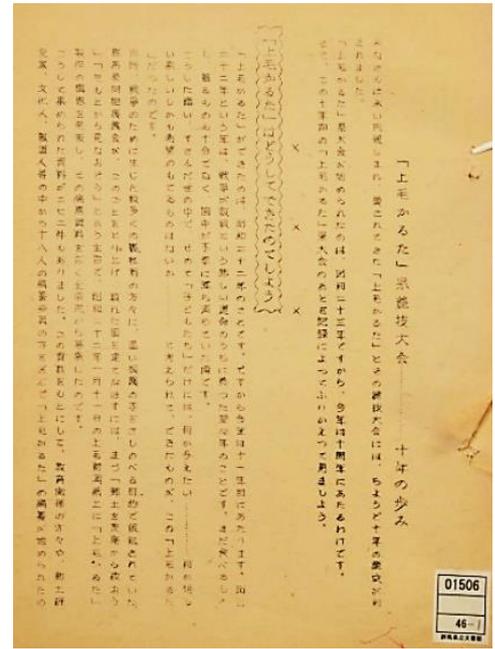


# 文書館 だより

TEL027 (221)2346

URL <https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>

第 6 9 号 令和 7 年 3 月



## 一 上毛かるた関係資料 一

写真は上毛かるたの誕生に関連した文書の一部です。「同胞援護会事業一覽」には、「郷土を明るく住みよい処にするために」を目的とした事業の一つとして「上毛かるた」その他の発行が明記されています。「上毛かるた十年の歩み」には、上毛かるたができた経緯や発行数、上毛かるた県大会の記録などが書かれています。ポスターは、上毛かるたを作った群馬県同胞援護会の活動の一端を示すものです。

上毛かるたは昭和 22 年(1947)年に、浦野匡彦氏を中心とする同胞援護会群馬県支部(後に群馬県同胞援護会、群馬文化協会)の終戦後の生活・就業等の援護事業の中で誕生したものです。文書館で所蔵している文書は、主に上毛かるたの誕生から発展の過程を表す記録類です。同胞援護会群馬県支部や群馬文化協会に関係する資料で、事業要覧や事業計画書、各種事業実施要項などのほかに、浦野匡彦氏が編集・発行した機関紙関係(『母と子』『たすけあい』)、群馬文化協会が発行した、あるいは蒐集した図書資料があります。

群馬県では令和6年4月1日より、群馬県文化財登録制度をスタートさせました。文化財登録制度は、文化財保護の中心である指定制度を補い、より多くの文化財の保護を図ることと、文化財を活用しつつ次の世代に継承するため指定制度より緩やかな規制とし、所有者の意思を尊重しつつ自発的な保護を図ることを目的としています。令和6年8月1日に文書館で所蔵している「西方恭子家文書」の一部です。この中の201点が、群馬県立歴史博物館が所蔵する153点と合わせて「上毛かるた関係資料」として、群馬県登録文化財として登録されました。(西方恭子氏は上毛かるたの生みの親である浦野匡彦氏の長女です。)

### 母女子援護徹底運動

**市町村の比白さん!**  
群馬県母子保護連盟に入会し  
未亡人母子の相談相手になって下さい  
未亡人母子の比白さん!  
市町村母子会を結成し自らの  
力で自らの道を開拓する努力をして  
下さい本会及群馬県母子保護連盟  
の会員は皆さんの相談相手になります

**懸賞論文募集!!**  
一 題 未亡人母子を如何にして更生させるべきか  
二 対象 農村社会事業の在り方  
三 発 表 九月十五日(原稿の長) 文化の日  
四 懸賞資格 県内居住者  
五 賞金 毎篇 一等一名 参千円  
二等二名 壹千円  
六 原稿送先 民生問題研究所懸賞論文係  
群馬市石川町二四

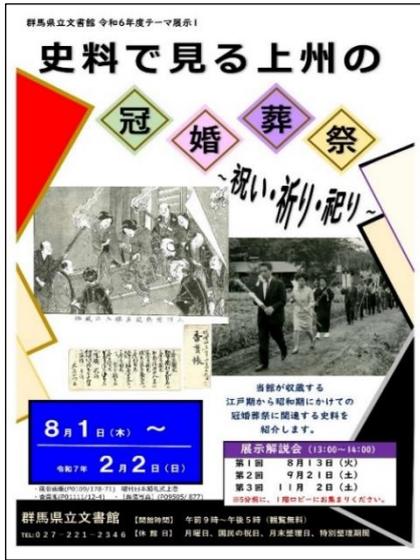
群馬県同胞援護会  
群馬県文化協会  
群馬県母子保護連盟

群馬県立歴史博物館  
群馬県立文書館  
群馬県立総合資料館

群馬県立文書館  
群馬県立歴史博物館  
群馬県立総合資料館

(番九四一四話電) 九五甲町中田市蒸前

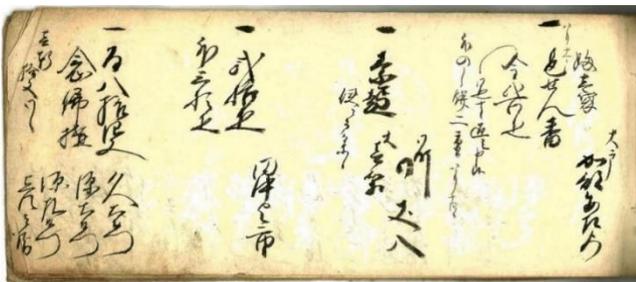
## 「史料で見る上州の冠婚葬祭～祝い・祈り・祀り～」の開催



私たちは、誕生から死にいたるまでの人生において、伝統的な冠婚葬祭の習俗を特に大切なものとしてとらえてきました。しかし、歴史的に見ると、こうした伝統的な習俗は、急速な社会変化にとまぬ大きく変貌し、その多くが消滅しつつあることがわかります。また、近年の新型コロナウイルスの感染拡大は、冠婚葬祭の在り方そのものにも大きな変化をもたらしました。このような状況を踏まえ、今回の展示では、当館が収蔵する冠婚葬祭にまつわる史料の紹介を企画しました。展示会は多くの方に興味を持っていただきました。

開催期間は令和6年8月1日(木)から令和7年2月2日(日)まで開催し、同時開催したインターネット展示とあわせて延べ1500名の方に御観覧いただきました。

### 展示史料紹介



展示No.38「香代帳(伊能仙吉葬儀)」文政3年(1820)8月11日  
(P8003 伊能光雄家文書No.438-3)



この史料は、吾妻郡岩井村(現吾妻郡東吾妻町岩井)の名主家の葬儀において作成された香代帳(香奠帳)です。納入者の筆頭には、上州の豪商として知られた吾妻郡大戸村の加部安左衛門の名も見えます。葬家である伊能家は加部安左衛門家とも姻戚関係にありました。香代帳(香奠帳)とは、葬儀に際し、会葬者から葬家に贈られた香奠を記録したものです。また、香代帳(香奠帳)は香奠返しの基準ともなり、他家との義理の覚書としての役割も果たしました。

## 「近代ぐんまの女性たち—歴史と現在をつなぐ軌跡—」の開催

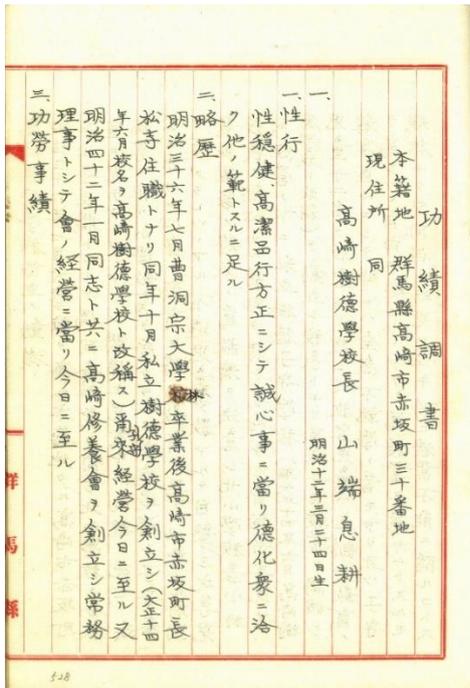
基本的人権の尊重や法の下での平等が定められた現行憲法制定前、女性は現在より多くの社会的制約を受け、女性が活躍する場面が限られていました。

当館収蔵史料にもこの時代の女性が様々な課題に直面した記録が残されています。しかし、その中には自らの才覚と努力により道を切り開いた女性や女子教育の必要性を認識し、それを支援した男性の記録などがあります。

本展示会では、このような明治から戦後の女性に関する史料43点を、医療衛生・教育・産業などのテーマに分けて紹介し、近代群馬の女性たちの軌跡をたどります。

開催期間は令和7年2月18日(火)から4月27日(日)までです。インターネット展示も実施中です。

## 展示史料紹介



紀元 2600 年記念祝典の表彰に関する山端息耕氏の功績調書です。高崎市・長松寺の住職山端氏は、不遇な家庭環境のために小学校教育を受けられず中途退学して子守奉公に出される児童(主に女子)のために私立樹徳子守学校を創立し、苦難に直面しながらも約 36 年間児童の支援に努めたことが評価されました。

## 【調書内容の一部】

- ・全く不就学の児童もあり、かつ子守をしつつ自由に遊ぶため、授業をしようとしても規律なく又同伴の幼児は泣き叫ぶので授業不能に陥ることすらあった。
- ・節約や御下賜金、寄付金を基に苦心しながら経営を安定させ、不遇な児童の教護に努めた。これにより、計 874 名の卒業生を出すことができた。この中には親の無理解により不幸な境遇に陥(おちいる)者もあるが、大部分は健全な社会の一員として活動しつつある状況である。

史料 13 山端息耕の功績調書 昭和 15 年(1944) A0184A00 11 3-3

## 令和 6 年度の学校連携

令和 6 年度の学校連携では、小学校の学習協力(総合的な学習の時間)、中学校の授業協力(社会科歴史的分野)、職場体験学習(中学校・高校 2 校)、高校生への学習協力(個人)、教職員向け研修講座、大学のゼミへの協力を実施しました。今年度の取組について主なものを報告します。

## ○小学校 3 年生 総合的な学習の時間

## (天川のおすすめスポットをつたえよう/地いきのよさを発信しよう)

前橋市立天川小学校 3 年生の総合的な学習の時間に関連して、今年度は一学期と三学期の 2 回協力をしました。一学期の学習では、学校のある地域(天川地区)のおすすめスポットを紹介するために、児童が調べたいテーマを決めて調査を行う中で、文書館を選んだ 2 名の児童がインタビューをするために来館しました。インタビューでは、文書館のできた年や施設(部屋の数やその役割など)、文書館で働いている人、どんなもの(史料)があるかなどの質問を受けました。

三学期の学習では、2 クラス 63 名の児童が来館しました。地域のよさを発信する方法としてかたを作することを目的とし、自分たちで調べて分からないことを文書館で聞くという学習です。事前に聞きたいこと(萩原朔太郎、岩佐直治、二子山古墳、端気川、天川地区の歴史)について文書館で資料を作成し、前半はそれらのことについて説明を行い、残った時間で、天川地区に関連する資料を閲覧する活動を行いました。



## ○中学校2年生 社会科歴史的分野

前橋市立第五中学校の2年生3クラスに授業を実施しました。明治の学習が終わった後のまとめとしての位置づけで、明治初期の群馬県と明治政府の政策とのかかわりについて学習を行いました。

廃藩置県から第二次群馬県が成立する過程の中で、県庁の移転問題をたどりながら、明治政府の政策との関連を取り上げました。第一次群馬県ができた時に、高崎城が兵部省(後に陸軍)の管轄になったために県庁が前橋に移されたこと、熊谷県時代には地租改正や学制についての大きな仕事が行われていたこと、第二次群馬県時代に前橋が県庁誘致のために多額の移転資金を準備できたのは、当時の輸出産業の中心であった生糸とのかかわりがあることを取り上げました。

学校の授業では、全国的なものとして内容を取り扱い、地域とのかかわりを考える機会があまりない中で、文書館所蔵の史料を活用して大きな歴史の流れと身近な地域とのつながりに気づかせることができました。

## ○職場体験学習(中学校・高等学校への協力)

前橋市立木瀬中学校と群馬県立高崎北高等学校、高崎東高等学校(以後、高崎北高校、高崎東高校とする)の職場体験学習(インターンシップ)を受入れました。高崎東高校のインターンシップは、今年度が初めてでした。木瀬中学校は2年生の生徒4名が3日間、高崎北高校と高崎東高校は1年生の生徒2名が2日間、来館して文書館の業務を体験しました。中学生は体験的に学ぶことを通して、勤労の意義や尊さを学ぶことを、高校生は社会の実態を理解しながら、将来の進路選択にいかすことがめあてだったので、それぞれのめあてに合うプログラムを考え、体験を実施しました。実施した体験は次のとおりです。

### (1) オリエンテーション

- ・文書館が果たしている役割と仕事内容を知ってもらうための文書館についての講義
- ・文書館内での注意事項(書庫内への下足禁止、飲食の決まりなど)

### (2) 古文書係

- ・古文書に関する基礎的な話と古文書の扱い方の講義
- ・県史複製資料の点検作業
- ・古文書係が担当した展示について、展示内容の説明をくわしく聞くとともに、展示の意図や注意点、パネル製作の方法など

### (3) 公文書係

- ・絵図や簿冊の状態調査の体験(寸法の計測、簿冊の状態のチェック)
- ・書庫内での配架・整理作業
- ・状態調査の記録をデータ入力する体験(高校生のみ)

### (4) 閲覧

- ・出納体験(目録検索システムの体験、書庫からの出納、貸出・返却のチェック)
- ・アーカイブズビューアーの操作体験

### (5) IPM

- ・IPMについての説明(温湿度の管理や害虫から文書を守ることの必要性)
- ・書庫の温湿度調査(書庫内の温湿度計のチェックと記録)
- ・害虫調査(館内に設置してある害虫トラップを回収して捕獲した害虫を調べる)

高校では、インターンシップの事後に学習のまとめとして発表会を実施しています。インターンシップで学んだことを同級生に発表する中で、文書館の役割や職員の働く姿勢、インターンシップを通じて考えた職業観などを伝えていました。文書館での職場体験が生徒の中で役に立っていることを実感できました。

## ○教員向け研修講座の実施（歴史資（史）料の活用を考える）

総合教育センター令和6年度研修講座「社会科・地歴公民科研修講座」を9月17日(火)に開催しました。この講座も4回目となり、プログラムとして定着してきています。今年度も高等学校の地理歴史科・公民科を担当する教員の初任者研修を兼ねており、初任の先生方が参加しました。今回は、義務教育の先生5名の参加を含む22名となり、昨年度より参加者が11名増えました。



講座は、郷土の歴史資料を教材化することの根拠や意義、教材化する方法についての講義「研修1 文書館の概要や郷土の歴史資料についての解説」と、参加者に教材化を考えてもらう「研修2 郷土の史料の効果的な活用を考えよう(演習)」の2部構成で実施しました。

研修2では、当館で作成した教材化史料(当館HPで公開中)の中から、数点を選んで実物を準備し、それを実際に見てもらいながら授業構想を考えてもらいました。資料活用の幅を広げることを前提に、教科を日本史に限定しないで、参加者に設定してもらうようにしました。また、グループは色々な視点から意見が出るよう、校種・経験が交ざるように編成を工夫しました。参加者は並べられた史料をよく見て吟味し、職員のアドバイスを受けながら、授業に生かすアイデアを考えていました。活用する史料が決まると、アイデアをワークシートにまとめ、グループ内で発表しました。校種や自分の専門科目の違いから、それぞれが選んだ史料の活用の仕方に感心したり、発表からヒントを得たりする様子が多くみられ、活発な意見交流が行われました。

この研修で終わるのではなく、参加した先生方が文書館の所蔵史料に関心をもち、実際に授業で活用しながら郷土史料の大切さや良さを伝えてくれることを期待しています。

注)ここでは、次のような使い分けをしています。

「資料」…何かをするときに役立たせるための材料

「史料」…歴史上の史実に基づいた記録や書類

## ぐんま史料講座開催報告

11月2日(土)、放送大学客員教授の板橋春夫先生を講師にお迎えして今年度の「ぐんま史料講座」を開催しました。今年度の講座は、群馬県内に伝来した冠婚葬祭にまつわる史料をテキストとし、「史料で見る上州の冠婚葬祭」と題して行われました。令和6年度テーマ展示「史料で見る上州の冠婚葬祭～祝い・祈り・祀り～」に関連したものです。

急速な時代変化の影響から、現代においては多くの伝統的習俗が失われつつあります。また、そのような伝統的習俗を体験した世代の方々も少なくなっています。そのような意味で、近年においては、文字資料や絵画資料(写真資料)などの歴史資料から伝統的習俗を復元することの重要性が高まっています。

今回の講座では、民俗文化の研究に歴史資料を用いた論考を発表されてきた板橋先生ならではの切り口で、上州の冠婚葬祭習俗について、各種の歴史資料を読み解きながらお話ししていただきました。



## 古文書講座開催報告

### 1 古文書入門講座

令和6年度の古文書入門講座は、6～7月の全4回で開催しました。昨年度5月に新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが第5類に移行したことに伴い、今年度からは募集の段階から各種の制限を撤廃しての実施となっています。

講座では古文書の書体・文体や学習のやり方といった基本から始まり、平易な古文書テキストを実際に読解しながら、段階を追って古文書解読の基礎についての講義がされました。受講者の方からのアンケートには「分かりやすく面白かった」「時代背景等の解説もあり興味深かった」「今後も学習を続けていきたい」といった回答が寄せられ、概ね高評価をいただくことができました。

回	開催日	テーマ	講師
1	6月15日(土)	「くずし字」の基礎を学ぶ1 数字、元号干支に親しむ	須藤 聡 (文書館職員)
2	6月22日(土)	「くずし字」の基礎を学ぶ2 人名、仮名、地名に親しむ	
3	6月29日(土)	「村方文書」に親しむ1 検地帳・宗門人別帳・年貢割付状等	
4	7月6日(土)	「村方文書」に親しむ2 送り証文、引取り証文、関所通り証文等	



### 2 長期古文書講座

令和6年度の長期古文書講座は、当館の古文書講座を受講したことのある方をはじめ、既に古文書解読の経験がある方を対象に実施しました。内容は中近世から近代の時代ごとにテーマに沿った複数の古文書を扱う前半、近世の冊物類から1点を中心に据えて読み進めていく後半の2部構成としており、いずれか一方、もしくは合わせての受講が可能となっています。

講師は当館職員のほか、前半の近世文書編と近代文書編では巻島隆先生・丑木幸男先生の両名をお招きし、豊富な知見と様々な史料に基づいて講義をしていただきました。入門講座と比べて高度な内容となりますが、受講者からのアンケートはこちらも概ね高評価となっています。

前半	開催日	テーマ	講師
1	9月14日(土)	近世文書概論・近世文書読解演習	巻島 隆 先生 (元群馬大学非常勤講師)
2	9月21日(土)	江戸のスポーツー登拝、遠足、剣術、弓術、馬術／上	
3	9月28日(土)	州の剣術ブーム／浪士組、そして新選組	

4	10月12日(土)	中近世文書概論・中近世文書読解演習	須藤 聡
5	10月19日(土)	中世から近世初期の道と関所(根利の関所と西牧関所)	(文書館職員)
6	10月26日(土)	近代文書概論・近代文書読解演習	丑木幸男 先生
7	11月9日(土)	市町村合併20年/博覧会・共進会関係史料	(国文学研究資料館名誉教授)
後半	開催日	テーマ	講師
8	11月16日(土)	近世文書特論	関口 荘右
9	12月7日(土)	「慶応記聞 卅三」を読む	(文書館職員)
10	12月14日(土)		

入門・長期講座ともに、講義で使われた古文書はすべて文書館収蔵のものとなっており(一部複製資料での閲覧)、これまでのテキストの販売もしております。

## 新たに収集した古文書・新たに閲覧公開した古文書

### ●新たに収集した古文書

No.	伝存地・文書群名等	内容等	点数
1	沼田市西倉内町 加藤史夫家文書(追加寄託)	沼田藩土岐家関係文書、小笠原流武家故実関係文書、沼田藩士諸家文書、宗教関係文書等。	約130点
2	前橋市富士見町田島 前橋市文化協会富士見支部収集文書(藤木家・石関家文書)(寄贈)	渋川市北橋町真壁美保地区に存在したと思われる藤木家および藤木家と縁戚関係で前橋市富士見町米野地区に存在したと思われる石関家(共に詳細は不明)の関係者が残した明治から昭和までの「毎日記」「日記」「養蚕日記」などの簿冊資料。	117点
3	吾妻郡高山村尻高 松井久家文書(寄贈)	領主から発給された下知状の他、近世尻高村の名主を務めた松井家に伝来した年貢皆済目録等の村政史料及び家の出納・冠婚葬祭・生業(農業)等に関する史料。	約900点
4	吾妻郡東吾妻町原町 富澤久幸家文書(追加寄託)	天明3年(1783)に発生した天明泥流の顛末について、原町の富澤久兵衛が残した記録および付属する被害絵図。	2点
5	伊勢崎市華蔵寺町 新井哲夫氏収集文書(寄贈)	新井哲夫氏が収集した文書及び氏に宛てられた書簡で構成される。高崎藩領江木村に関連する村方文書や関孝和関係史料、高崎市出身の書家大澤雅休の書簡等。	約60点
6	みどり市笠懸町阿左美 赤石幸夫氏収集文書(追加寄託)	近世における桐生新町関係文書(絹札・御用状・書簡等)及び近代における桐生地域関係文書(古写真・商店使用包み紙等)。	約16点
7	藤岡市下日野 小此木千代子家文書	年貢割付帳や訴訟関係等の近世文書が70点以上と、書簡や地券等の近代文書が156点以上。慶長年間の年貢割付帳を含む。	約250点

8	前橋市朝日町 多加谷敏則家文書（追加寄贈）	旧前橋藩の藩士名簿、近代における多加谷家の家業（金融業・材木商）に関する史料。	7点
---	--------------------------	---	----

### ●新たに閲覧公開した古文書

No.	伝存地等・文書群名	内容・点数（請求番号）
1	前橋市住吉町 藤井新兵衛家文書	前橋で質屋を営み、市の参事会員等を務めた藤井新兵衛氏の家に伝来の文書群。今回公開分は明治以降の近現代文書で、手紙や領収証が中心です。159点(P9201)
2	前橋市文京町 笠原嘉夫家文書	明治～昭和期に全国各地で農事試験場技師として務めていた笠原熊三郎氏の蔵書と任免状を中心とする文書群です。業務や養蚕に関する文書や写真、漢文・漢詩についての書籍等からなります。80点(P09905)
3	群馬県 徳田健一家文書	高崎市木部町の萩原家(吉井藩 18か村肝煎名主家)及び安中市松井田町の徳田家に伝来したものと考えられる文書群です。貢租関係文書が多くを占める近世期文書と、近代郡・村行政関係文書が中心となる明治～昭和期の文書から構成されています。217点(P0306)
4	藤岡市中大塚 亀井恒太郎氏収集文書	福岡市大陸引揚者連絡本部発行の引揚者救援情報誌である『大陸時報』、昭和14(1939)年4月に設立された日本占領下華北の交通運輸会社である華北交通の社員会機関紙『興亜』等からなる文書群。18点(P09313)
5	北群馬郡榛東村 岩崎秀雄氏収集文書	昭和11(1936)年9月の宮内省侍従久松定孝より宮内大臣松平恒雄に提出された「千島差遣産業並ニ民情視察」報告書の下書及び関連書類綴です。宮内属佐野恵作が綴ったと推定され、当時の千島方面の産業、民情等が詳述され、関連地図、写真等も含まれます。1点(P09101)
6	碓氷郡松井田町五料(現安中市) 中島徳造家文書	中山道の茶屋本陣(お東)の家の文書群。今回の公開分ははがき・書簡といった近現代文書を中心に、家の記録等の近世文書約700点も含みます。4344点(P8909)
7	伊勢崎市曲輪町 下城株式会社文書	伊勢崎市の下城家・下城株式会社伝来の文書で、今回公開分は織物業等を営んでいた同社の経営に関わる文書等の近代文書が中心となっています。2034点(P9602)
8	前橋市 高橋仙次郎氏収集文書	古物商を営んでいた高橋氏が、田村家に伝来したものを購入した近代文書群です。田村家は明治期頃から製糸業を営んでおり、その会社経営や家計に関する金銭帳簿類が中心となっています。41点(P09904)
9	高崎市井野町 大類雅敏家文書	古書店を営んでいたという大類家に伝来した文書群で、江戸～明治期の版本類、大正期の句集(特に高崎に関係するもの)を主として構成されています。189点(P0205)
10	県内各地 明治期『郷土誌』(佐波郡采女村)	明治42年に知事が発した群馬県訓令に基づいて各市町村が編纂した、いわゆる「郷土誌」です。今回の公開分は佐波郡采女村(伊勢崎市)のものです。1点(PF0007)

※No.10は複製本による閲覧となります(請求番号がPFはマイクロフィルム収集文書)。

## 県から新たに移管された歴史公文書

移 管 令和6年度の文書整理において、保存期間の満了した文書の中から県各所属が文書館に移管した歴史公文書は1,234冊でした。(詳細は次表のとおり。)うち保存期間を満了し管理委任が解除となった文書から移管されたものは734冊でした。

管理受任 令和6年度に管理委任により県の各機関から受け入れた文書は、428冊でした。

### 令和6年度移管文書の部局別冊数

部局名	冊数	部局名	冊数
知事戦略部	67	会計局	3
総務部	52	企業局	14
地域創生部	568	議会事務局	6
生活こども部	23	収用委員会	1
健康福祉部	53	教育委員会事務局	58
環境森林部	128	公立大学法人	24
農政部	103	県立学校	1
産業経済部	42	合 計	1,234
県土整備部	91		

(参考) 令和5年度の状況  
 ・移管 781冊  
 ・管理受任 575冊

## レファレンス事例紹介

### 事例 1

#### <質問>

自宅で古文書を保管しています。保管方法についてアドバイスしてください。

#### <回答>

群馬県立文書館と群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会が共同で作成したリーフレット『史料保存の手引き』を御覧ください。個人宅での古文書の扱い方や保管方法について、わかりやすくまとめられています。なお、このリーフレットは群馬県立文書館のホームページ画面にある群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会のコーナーからダウンロードすることができます。

### 事例 2

#### <質問>

昭和22年(1947)のカスリン台風で前橋市富士見町原之郷が被害に遭い、土地が壊滅しました。台風前の土地の様子が分かる地図が残っていれば教えてください。

#### <回答>

明治6年(1873)に地券発行事業の関係で作成され、群馬県に提出された地引絵図のなかに『勢多郡原之郷』の絵図が存在します。一筆ごとに地番・字名・面積・所有者などが詳細に記載されています。なお、絵図は群馬県立文書館内に設置されているデジタルアーカイブビューアから御覧いただけます。また、昭和15年(1940)発行の『富士見村全図』(P8512 No.762)なども台風前の土地の様子を伝える資料として参考になると考えられます。

## 事例 3

## 〈質問〉

日本近代史を研究している大学生です。明治3年(1870)から昭和10年(1935)代にかけての前橋市の製糸工場数の推移がわかる資料を教えてください。また、製糸工場が記載されている前橋市の地図があれば教えてください。

## 〈回答〉

前橋市の製糸工場数の推移に関しては、群馬県蚕糸業史編纂委員会『群馬県蚕糸業史上・下』(群馬県蚕糸業協会:昭和29年)、近藤義雄『群馬の養蚕』(みやま文庫:昭和58年)、萩原進『群馬の生糸』(みやま文庫:昭和61年)などの書籍が参考になります。また、昭和6年(1931)12月に群馬県産業組合製糸組合が作成した「製糸工場調(群馬県)」(P8909 No.9934)などの史料も参考になるかと思われます。

製糸工場が記載されている前橋市の地図に関しては、『前橋市史』の付録地図や『戦災と復興』(前橋市戦災復興誌編集委員会:昭和39年)の付録地図が参考になります。また、昭和14年(1939)に煥乎堂から発行された「前橋市全図」(P8901 No.225)などの史料も参考になるかと思われます。

## 事例 4

## 〈質問〉

『上野国那波郡村図』(A0384A0G 2303 P27)に「[村名記入なし]中町」という図があるが、藤川村の図ではないでしょうか。藤川村の地引絵図(A0181AMA 1102)を確認したところ、形は似ているものの同じ字名が見当たらず、確証が持てません。分かるようであれば教えてください。

## 〈回答〉

『上野国那波郡村図』と藤川村の地引絵図を比較すると、諏訪社が同位置であること、同じ屋敷根・藤川前という字名が存在します。従って、『上野国那波郡村図』は藤川村の絵図であると考えられます。地引絵図を見る際には字名だけではなく、寺社やお堂、古墳や城跡などを注意深く見ていくことで、場所が特定できる場合があります。

## 事例 5

## 〈質問〉

桐生市菱町の大沢家についてについて、家系図や宗旨人別帳(宗門改帳)などで調べたいと思っています。参考となる資料を教えてください。

## 〈回答〉

菱町郷土史編纂委員会『桐生市菱の郷土史』(菱町郷土史編纂委員会:昭和45年)によれば、大沢家は明治期に村長などを務めた名家であったようです。また、『群馬県姓氏家系事典』によれば、菱の大沢氏は由良家に仕えた大沢氏であるといえます。このことから、小山氏(秀郷流藤原氏)に出自を持つ世良田今井城主大沢氏の一族である可能性が高いかと思われます。

**事例 6****<質問>**

テレビ番組制作関係者です。制作を進めている番組で「源義重（新田義重）」を取り上げるようになったので、どのような人物か詳しく教えてください。

**<回答>**

源義重に関して生年は不明です。永久2年(1114)説を採れば、仁平3年(1153)に内舎人に任官するまでの約40年間の経歴が不明です。可能性としては父源義国と弟足利義康が在京活動したのに対し、義重は地方で新田荘開発などの土地経営や義国流清和源氏の勢力扶植を行っていた可能性が考えられます。父義国が久安6年(1150)頃に京から足利に下向し、晩年に新田荘開発に従事したことから、代わりに義重が上洛した可能性が高いと考えられます。

また、平氏政権のもとでは義重は平宗盛の家人になっていましたが、新田荘領家の藤原忠雅に主に仕えていました。治承4年(1180)に上野国に下向したのも平家の命を受けてのものでしたが、義重は軍事的なテリトリーを維持・拡大する絶好の機会と考えた可能性があります。必ずしも平家家人としての活動ではないと考えられます。

※レファレンス内容が群馬テレビ特別番組「上野国に源義重あり！」(令和6年(2024)10月1日放送)内で取り上げられました。

**閲覧室からのお知らせ****1 閲覧室の開室時間等を一部変更しました。**

新型コロナウイルス対策を機に導入された午前と午後の閲覧室利用の事前予約制に伴い、これまで正午から午後1時までには閲覧室を閉鎖しておりましたが、令和6年9月3日(火)からは閉鎖せずに閲覧室の開放を継続し、午前と午後の継続利用も可能となりました。

**(1) 閲覧室の入場制限を撤廃**

これまで、同一時間帯に利用できる人数の上限を8名としていましたが、この制限を撤廃しました。閲覧者が多く混み合うような場合には、相席などをお願いする場合があります。

**(2) 午前中の閲覧申請・複写申請は11時30分まで**

正午から午後1時までには文書の出納事務を行いません。午前中の閲覧申請と複写申請は、11時30分までに閲覧カウンターに提出してください。

なお、午後の閲覧申請と複写申請の提出は、午後4時30分までとなります。

**2 閲覧室に持ち込み可能な物品について**

閲覧室に持ち込み可能な物品は以下のとおりですので、改めてお知らせします。持ち込んだ物品・機材を利用する場合は、資料・文書を毀損することのないよう、また、周りの閲覧者に迷惑をかけないようにご注意ください。

①鉛筆(シャープペンシルは不可)、②カメラ(デジタルカメラ含む)、③携帯電話(スマートフォン)

※カメラとしてのみ使用可。閲覧室内での通話は禁止です。④ノート型パソコン、⑤フェイスアップ・スキャナー(非接触かつ卓上型: おおむね高さ45cm×幅25cm×長さ30cm以内のもの)、⑥柔軟なビニールタイプのメジャー ※文書に触れないように注意してください。なお、飲食物やコピー機、金属製メジャー、文鎮、三脚/脚立等の持ち込みは禁止としています。

## 今後の行事予定

展示

- ・テーマ展示1  
8月1日(木)～12月26日(金)(予定)
- ・テーマ展示2  
2月3日(火)～6月28日(日)(予定)

講座

古文書入門講座(6月～7月予定)土曜日 午前10時～12時  
 長期古文書講座(9～11月予定 全10回)土曜日 午前10時～12時  
 ぐんま史料講座1 群馬県民の日記念・文書館会館記念日行事 10月25日(土)  
 ぐんま史料講座2 2月予定

令和7年度開館カレンダー

4月							5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

8月							9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
31																					30						

12月							1月							2月							3月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					

■ 休館日 ■ レファレンス(古文書の解読等の相談)



### 交通のご案内

- ◆ JR両毛線 前橋駅から徒歩25分、バス15分

群馬県立文書館だより第69号  
 令和7年3月31日発行  
 編集・発行 群馬県立文書館  
 〒371-0801  
 群馬県前橋市文京町3丁目27-26  
 電話 027-221-2346  
 題字/岡庭征人書